

# 浜田林業部トピックス(4月号)

## TOPICS 1

### 鳥獣保護管理員に委嘱状を交付

4月8日(水)、今年度の「鳥獣保護管理員」、6名の方々に委嘱状を交付しました。

鳥獣保護管理員は、鳥獣の生態や狩猟のルールについて必要な知識・技量を持っており、パトロール活動を積極的に行っていただける方を西部農林振興センター所長が委嘱するものです。

今後、1年を通じて狩猟取締、鳥獣保護区等の管理、鳥獣の生息状況等に関する調査、普及啓発等の活動を行っていただきます。

委嘱状交付の後、事務打合せを実施し、改めて鳥獣保護管理員の服務規程や、鳥獣保護管理法について確認しました。また、浜田管内の捕獲頭数の推移、狩猟免許取得数、狩猟のマナー等の情報共有や、鳥獣保護区についての疑問・課題について意見交換が行われました。昨年度に引き続き、いずれも経験豊かな狩猟のプロの方々であり安心してお任せできます。

なお、委嘱式・事務打合せともに、十分に距離を空ける、換気を行う等の新型コロナウイルス感染防止対策を取った上で実施いたしました。



委嘱式の様子



打ち合わせ会議の様子

## TOPICS 2

### 森林保全巡視指導員に委嘱状を交付

4月8日(水)、今年度の「森林保全巡視指導員」10名に委嘱状を交付しました。

近年、森林の有する多面的機能に対する国民の要請が高まりつつありますが、一方で違法伐採、不法投棄等が問題となっています。

そこで島根県では、「森林パトロール」という事業の中で、地域の関係者である「森林保全巡視指導員」と一体となり、巡視活動を行うなど、森林の保全管理に取り組んでいます。

「森林保全巡視指導員」は、パトロールを行う森林に精通し、さらにパトロール業務を行うにあたり必要な知識・技量を有し、かつ森林保全管理に対し熱意を持っていらっしゃる方に対して、西部農林振興センター所長が委嘱するものです。

今後、1年を通じて、森林法に基づく保安林の管理に関する指導や自然災害の早期発見、山火事防止の指導など、森林保全管理に関して多岐にわたる活動を行っていただきます。

なお、委嘱式・事務打合せともに、十分に距離を空ける、換気を行う等の新型コロナウイルス感染防止対策を取った上で実施いたしました。





# 浜田林業部トピックス(5月号)



## TOPICS 1

## カメムシから球果を守る！ 袋かけ作業を実施しました

島根県には山に植えられるスギやヒノキなどの種子を採取するための採種園が金城、瑞穂及び宍道の3カ所があり、県が管理を行っています。品質（発芽率）の高い種子を採取することは、優良な苗木生産へつながります。そのため、島根の循環型林業を確立していくうえで、種子生産は重要な役割を担っています。

種子生産は

「害虫（カメムシ）防除→球果採取→乾燥・脱粒→発芽試験→種子配布」の流れで毎年行われています。

今回は種子生産の動き出しとなる害虫防除を行いました。皆さんもよく知るカメムシは球果を食料としており、これは種子の品質低下の大きな原因となることから、種子生産においてカメムシ対策は大切な作業となっています。

害虫防除の方法は2段階あり、今回はカメムシの侵入を防止する「袋かけ」を行いました。この「袋かけ」はカメムシが孵化を始める前に行うことが重要となっており、今年は5月20日（水）に金城採種園で実施しました。この作業を行うことによって種子の発芽率は、未処理のものと比較して数倍高くなります。今後は、害虫防除の1つである薬剤散布を夏頃に行い、今年の秋に種子を収穫し、年明け以降苗木生産者に種子を配布する予定となっています。



ヒノキの球果



袋かけ作業中



袋かけ後

※循環型林業・・・木を「伐って、使って、植えて、育てる」のサイクルによって環境保全と持続可能な地域発展の実現を目指します



# 浜田林業部トピックス(6月号)



## TOPICS 1

## アライグマ、浜田で勢力拡大中！！防ぐなら今のうち！

アライグマは元来日本には生息していない動物ですが、ペットや動物園での飼育目的で日本に持ち込まれたものが、逃げ出したり捨てられたりし、野生化しました。現在では全国的に生息域を広げつつあり、特定外来生物に指定されています。島根県では県西部から生息域が徐々に拡大しており、浜田管内でも三隅町を中心に生息・繁殖が確認されていましたが、今年度初めて旧浜田市内での繁殖が確認されました。着々と生息域が広がっている事が考えられます。

### <アライグマってどんな動物？>

尾がしま模様！ 眉間から鼻筋が黒い！ 木登りが得意！



繁殖力が強く、1回の出産で3～5頭生み、1歳程度で繁殖可能になります。

### <アライグマが増えると何でダメなの？>

- ・農作物や家の中の食べ物などに被害が出ます。

雑食性で何でも食べます。(農作物、犬猫の餌、金魚、鯉など)

手先が器用な動物です。家屋に入り込み、戸や引き出しを開けて人間の食べ物を食べます。

- ・気性の荒い動物のため、むやみに手を出すとケガにつながる恐れがあります。

人にも感染する病気を持っている可能性があります。

- ・家屋の屋根裏などに入り被害を発生させます。(糞尿による悪臭、巣材利用の為の断熱材破壊など)

### <こんな痕跡があったら、アライグマがいるかも！>

- ・天井裏で大きな足音がする。

⇒タヌキやアナグマは天井裏に侵入することは稀。

テンやイタチは体重が軽く足音が小さい。

(テン：0.7～1.9kg程度、イタチ：0.1～1.5kg程度、アライグマ4～10kg程度)

- ・スイカに丸い穴があいていて、中身が無い。

⇒歯で穴を開け、手で中身を掻き出して食べる。

手先の器用な動物。

- ・家や畑に5本指の足跡がある。

⇒タヌキ：4本指、

アナグマ：5本指だがアライグマより指が短い。



アライグマの食痕



アライグマの足跡

### <アライグマがいるかも？と思ったら>

生息数が増えてからの対策は困難であり**早期の捕獲対策が必要**となるため、県ではアライグマの目撃や捕獲、被害発生情報を収集しています。

アライグマを目撃・捕獲された場合(捕獲には「捕獲許可」が必要です。)や被害が発生した場合は、西部農林振興センター林業振興課(0855-29-5604)までご連絡をお願いします。

# 浜田林業部トピックス(7月号)

TOPICS 1

イノシシから田畑を守る！狩猟免許試験のご案内

## 野生鳥獣の被害にお困りではないですか？

島根県では、特にイノシシによる被害が多く、農作物被害額の約8割がイノシシによる被害となっています。

### 鳥獣被害対策としては・・

1. 餌場をなくすこと
2. 侵入防止柵による防護
3. **捕獲対策**

防除しても出没を繰り返し被害をもたらす野生鳥獣を捕獲！

防除と捕獲の組み合わせが“効果的な対策”へつながります。

※有害鳥獣捕獲には  
狩猟免許+市からの有害捕獲許可が必要

鳥獣被害対策はまず「**食べさせないこと**」が原則。  
食べ物が得られない場所に鳥獣は近づきません。  
しかし、一度農作物の味を覚えた鳥獣はしつこく出没を繰り返します。  
そのような鳥獣に対しては**捕獲対策も必要**となってきます。  
自分の農地を自分で守るためにも  
**狩猟免許を取得**しませんか！

**県では以下の日程で狩猟免許試験を予定しています。**

#### 【狩猟免許試験日程】

- ①日 時：令和2年9月26日（土）9：00～  
場 所：浜田合同庁舎（浜田市片庭町254番地）
- ②日 時：令和2年10月3日（土）9：00～  
場 所：川本合同庁舎（邑智郡川本町川本265-3）  
試験手数料：わな猟免許（3,900円）  
第一種銃猟免許（5,200円）

※銃猟の場合は銃の所持許可が別途必要です。詳細は最寄りの警察署に相談してください。

#### 【狩猟免許試験事前講習会 受講料：6,000円】

##### <浜田会場>

日 時：令和2年8月30日（日）9：00～15：30  
場 所：石央文化ホール（浜田市黒川町4175番地）

##### <江津会場>

日 時：令和2年9月6日（日）9：00～15：30  
場 所：パレットごうつ（江津市江津町1518-1）

##### <川本会場>

日 時：令和2年9月20日（日）9：00～15：30  
場 所：悠邑ふるさと会館（邑智郡川本町大字川本332-15）

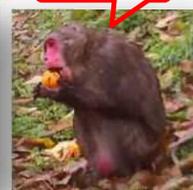
申請の方法やお問合せなどは、島根県西部農林振興センター林業振興課へ TEL：0855-29-5604



しっかりした防除が基本

イノシシ

サル



7月7日「乾しいたけの日」に、浜田市黒川町の「きんさい市場黒川店」において、浜田地域産の原木乾しいたけ販売促進会が開催されました。（主催：いわみ中央原木乾椎茸生産組合、JAしまねいわみ中央地区本部）

「日本産・原木乾しいたけをすすめる会」（本部：東京都）では、乾しいたけの「旬」が6月～7月であることと、七夕の「星」と乾しいたけの「ほし」をかけて、7月7日を「乾しいたけの日」と定め、乾しいたけの消費拡大に向けたPR活動として、全国各地で販売促進等の取組を実施しています。

浜田市は県内でも有数の原木乾しいたけの生産地です。乾しいたけは生しいたけと比較して豊富な栄養を含み、体にとっても良い食材です。特に、豊かな自然の恵みを受けて原木栽培されたしいたけを乾燥させた原木乾しいたけは、しいたけ本来の旨みと香りが格段に高くなります。

当日は、500円で用意されたビニール袋に乾しいたけを好きなだけ詰める「乾しいたけの詰め放題」が行われ、多くの市民が詰め放題に挑戦し、賑わいを見せてました。また更なる消費拡大を目的に、様々な調理例が記載されたレシピが配布されました。

浜田地域では、生産者、JA、市、県が一体となって乾しいたけの生産振興プロジェクトを推進しており、今後も乾しいたけの販売促進等の取組を実施する予定です。

ぜひ浜田の原木乾しいたけをご賞味下さい。



詰め放題の様子



詰め放題の様子

# 浜田林業部トピックス(8月号)

## TOPICS 1

### 治山施設定期点検開始

西部農林振興センター管内には2,600余りの治山施設地区があり、治山ダムなど多くの治山施設が設置されています。このたび、既存治山施設の長寿命化対策として、今後10年間にわたる定期的な点検を開始しました。

現地では各施設本体や周辺の森林を目視で確認し、図面・写真と共に調査書に記録していきます。7月から開始した点検において、早急に対策が求められる施設は確認されておりませんが、損傷等不具合が確認された場合は、効率的・効果的手法による対策を今後検討していく予定です。



主な治山施設（谷止工）



点検の様子

## TOPICS 2

### 浜田市今福公民館にてクマの出前講座を行いました

8月20日に小学生を対象としたクマの出前講座を実施しました。今回の出前講座は、ツキノワグマの目撃が多い地域の公民館からの依頼により実施したものです。西部農林振興センターの鳥獣専門指導員が講師を務め、ツキノワグマの食性、性格（性質）、季節ごとの行動、出会わないための注意点、出会った場合の対処法を寸劇を交えながら解説しました。また、ツキノワグマの剥製や毛皮、頭蓋骨や足形に実際に触れながらの質疑応答も行いました。参加した児童からは「毛がこんなに柔らかいと初めて知った」「クマの足の速さを知って驚いた」「クマは果物が好きということが分かった」「人に出会ったときのクマの気持ちが分かった」等の感想があり、ツキノワグマに対する理解を深めてもらうことが出来ました。



クマに出会ったらどうする？  
子どもたちに考えてもらいました。



クマの歯を触ってみました。



「毛がふわふわ！腕が太い！  
鼻が犬みたい！」  
様々な感想がありました。



# 浜田林業部トピックス(9月号)



## TOPICS 1

## 低コスト再造林研修会を開催

9月26日(月)、浜田市の島根県浜田合同庁舎大会議室において「島根県西部地域低コスト再造林研修会」(主催:西部農林振興センター、共催:江の川下流流域活性化センター及び高津川流域活性化センター)が開催され、西部地域の森林組合や素材生産事業者の方をはじめ各市町村や県の担当者が参加しました。

再造林の低コスト化は今年度から始まった「農林水産基本計画」においても、重点課題の1つとされています。現在、課題解決を目指して各圏域で取り組んでいるところですが、圏域をまたいだ情報共有、意見交換を目的として、本研修会を実施しました。

研修会では、森林組合が実施している事例紹介や、島根県中山間地域研究センターで行われている先進事例や研究内容が紹介されました。

島根県の目指す循環型林業の実現に向けて、再造林の実施は不可欠であり、森林組合や素材生産事業者の取り組み強化を進めていく予定です。



研修会の様子



研修会の様子

# 浜田林業部トピックス(10月号)

## TOPICS 1

### 林業体験会の開催

10月29日(木)、浜田市内及び江津市内にてポリテクカレッジ島根の学生と江津工業高校の生徒を対象とした林業体験会を開催しました。当日は、建築の設計事務や施工現場での技術者を目指すポリテクカレッジ島根の住宅環境科の1年生21名と江津工業高校の建築・電気科建築コースの1年生26名が参加しました。

体験会では、森林の機能と、健全な森林の成立や木材の生産に必要な施業について説明した後、実際にチェーンソーを用いて間伐体験を行いました。また、播磨屋林業株式会社の伐採現場を見学し、機械化の進む伐採作業について学びました。そして、島根合板株式会社の工場を見学し、「家づくり」にも多く利用されている合板ができるまでについて学びました。山にある木が伐採され、部材になるまでの流れを見学し、「家づくり」に必要な不可欠である「木材」についての理解を深めました。



間伐体験の様子



主伐現場の見学

## TOPICS 2

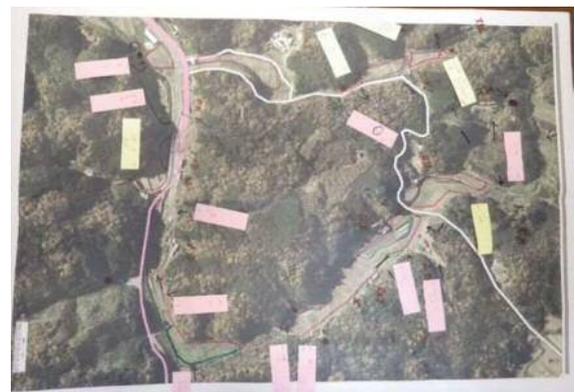
### 金城町追原大元集落で集落点検研修会を実施

10月10日(土)、金城町追原大元集落で集落点検研修会を実施しました。研修会ではイノシシ被害対策のポイントと、防護柵を設置する際の注意点(道路や川を横切らない、柵の両側とも草刈りをして管理しやすくするなど)を説明しました。その後、今年6~7月にかけて出沒が続いたクマやイノシシの出沒場所や獣道、動物を引き寄せる放置果樹がある場所などを地図に書き込み、防護柵を設置する場所の検討を行いました。

また、大元集落では「集落周辺里山整備事業」にも取り組んでおり、野生動物の潜み場所・通り道になっている里山の整備を行います。里山整備に加えて農地での鳥獣被害対策に取り組むことで、より一層の被害減少が期待されます。



研修会の様子



被害情報等を書き込んだ地図

# 浜田林業部トピックス(11月号)

## TOPICS 1

### 放置果樹の伐採事例を紹介！

クマが人里に近寄る大きな理由として、放置果樹の存在があります。人間が植えた果樹は実が大きく、甘みが強いため、奥山にある食べ物よりもはるかに魅力的なエサとなります。放置果樹を減らし、人里をクマにとって魅力の無い（行く用事の無い）場所にすることが、出没を抑制する大きなカギとなります。

今回は、放置されていた柿の伐採を、集落で取り組んだ事例を紹介します。浜田市金城町長田の大井谷集落。今は収穫していない柿の木を今後どうするか、考えてはいたが先延ばしになっていたとのこと。今年の異常な出没状況や、集落中心部の柿にまでクマの痕跡（爪痕や糞など）があったことをきっかけに、一念発起。住民の方々が協力し、集落内10本の放置柿を伐採しました。

今年は例年以上にクマの目撃や果樹被害が発生しました。このことを受け、金城町の事例に限らず、浜田管内各所で柿の全収穫や放置果樹の伐採に取り組んで頂きました。「食べない果実も収穫する」「防除しやすい、収穫しやすい形状に木を整える」「不要な果樹は伐採を検討する」これらの一手間一手間、クマを人里に寄せ付けない対策となり、クマと人の棲み分けを進めることにつながっていきます。



柿の伐採



鈴なりに実っていた柿を、みんなで回収します。

## TOPICS 2

### 金城中学校でツキノワグマの学習会を行いました

12月8日に中学校の防災学習としてクマの学習会を行いました。今回の学習会は、今年度ツキノワグマの出没が多かった金城町の中学校からの依頼により実施しました。西部農林振興センターの鳥獣専門指導員が講師を務め、金城町内での出没事例を基に、ツキノワグマ出没時の対策や電気柵の効果、出会わないための注意点、出会った場合の対処法について解説しました。特に近年人里に出てくる要因となっている放置果樹については、誘引物除去や電気柵による対策と合わせて、上記（TOPICS1）の金城町での伐採事例も紹介しながら説明しました。

金城町の未来の担い手に「人間とクマの棲み分け」について考えてもらうきっかけとなることを願います。



### TOPICS 3

## 治山施設点検研修を行いました。

11月25日（水）、27日（金）、江津市桜江町にて治山施設点検研修を行いました。西部農林振興センター管内には2,600余りの治山施設地区があり、治山ダムなど多くの治山施設が設置されています。このため、研修では、点検を行う職員の技術面の能力向上を目的に、しまね森林サポートセンターの協力を得て、施設の確認を実施しました。

現地では実際に3～4カ所の治山施設を点検し、施設本体の点検ポイントや周辺の森林状況の確認のほか、施設に損傷等の不具合を確認した場合の対応について確認しました。



研修のようす(11月25日)



研修のようす(11月27日)



# 浜田林業部トピックス(12月号)



## TOPICS 1

## 安全巡回指導を行いました

令和2年12月18日(金)に、林業・木材製造業労働災害防止協会浜田地区協議会主催で、浜田労働基準監督署と西部農林振興センター、浜田市が石央森林組合および江津市森林組合の作業現場を訪問し、安全な作業について巡回指導を行いました。

石央森林組合では伐倒作業時の注意事項について指導し、また、江津市森林組合ではかかり木の処理方法や使用するチェーンソーの点検をきちんと行っているかなどを確認しました。いずれの事業体も安全に気を配りつつ、日々の作業を行っていらっしゃいました。

手順を確認しながら作業を行い、労働災害を防ぎましょう。

※かかり木… 伐倒した木が、他の立木に引っ掛かって倒れない状態のこと



伐倒作業について指導



かかり木の処理について指導



# 浜田林業部トピックス(1月号)



## TOPICS 1

### 県民参加の植樹イベントを実施します！

令和3年3月13日(土)に江津市波子町の島根県立しまね海洋館アクアスの近くで、3月20日(土)に浜田市旭町の浜田市立旭小学校の近くで植樹イベントを開催します。(主催：島根県及び第71回全国植樹祭島根県実行委員会)本イベントは、今年5月30日に予定している全国植樹祭の開催に向けて県内各所で実施される県民参加植樹イベントの1つになります。

詳細については全国植樹祭のホームページ (<https://www.syokujusai-shimane2020.jp/>) や島根県西部農林振興センターのホームページ ([https://www.pref.shimane.lg.jp/seibu\\_norin/](https://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_norin/)) のお知らせを参照ください。

なお、参加には事前の申し込みが必要となりますのでご注意ください。  
※本イベントは新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえで開催します  
マスクの着用、検温などに協力をお願いします

## TOPICS 2

### 江津市都治町で鳥獣被害対策勉強会実施

令和3年1月24日(日)江津市都治町の有害鳥獣対策班からの依頼を受け、鳥獣被害対策の勉強会を実施しました。都治町では今までサルの被害対策に取り組んできましたが、町内の鳥獣被害はサルによるものだけでなく、イノシシの被害も発生しています。今回は「イノシシの生態・被害対策」を中心に被害発生の要因や防除のポイントについてお話をしました。質疑応答では電気柵の具体的な管理(草刈りについて等)についての質問や、近年浜田管内でも増えつつあるアライグマについての質問が出る等、獣害対策に対する関心の強さがかがえました。獣害対策は根気の必要な取り組みではありますが、少しずつでも被害減少へつながるようサポートしていきたいと思えます。



# 浜田林業部トピックス(2月号)

## TOPICS 1

### アライグマ、浜田市内で生息域拡大中！

浜田林業部トピックス(令和2年6月号)でもお知らせしましたが、島根県では県西部からアライグマの生息域が徐々に拡大しており、浜田管内でも三隅町を中心に生息・繁殖が確認されています。令和2年6月に旧浜田市内でのメスの捕獲、繁殖が初めて確認されました。現在も三隅町を中心に捕獲が多く、現時点では浜田管内で29頭も捕獲されています(R1年度は11頭)。

#### <メスが捕獲された！その意味は？>

アライグマの生息域拡大の順序は「オスの侵入・定着→メスの侵入・定着→繁殖」の順だと言われています。元々行動範囲の広いオスが新たなエリアへ侵入を始め、それに続いてメスの侵入が徐々に始まり定着していきます。メスが定着するようになると、そのエリアでの繁殖(出産・子育て)が見られ、エリア内で個体数が増えていきます。今までアライグマがいなかったエリアでメスがみられる様になると、その動物の定着が進んでいる目安になります。

#### <アライグマが増えると何でダメなの？>

アライグマは元来日本には生息していない動物です。ペットや動物園での飼育目的で日本に持ち込まれたものが、逃げ出したり捨てられたりし、野生化しました。現在では全国的に生息域を広げつつあり、日本在来生物を捕食する等、生態系に悪影響を及ぼしています。アライグマは外来生物法により「特定外来生物」に指定されており、飼養や輸入等を禁止し、被害発生を防止するための防除を行うことが規定されています。

#### <身近な被害>

- ・農作物や家の中の食べ物などに被害が出ます。  
雑食性で何でも食べます。(農作物、犬猫の餌、金魚、鯉など)  
手先が器用な動物です。戸や引き出しを開けることがあります。
- ・気性の荒い動物のため、むやみに手を出すとケガにつながる恐れがあります。  
人にも感染する病気を持っている可能性があります。
- ・家屋の屋根裏などに入り被害を発生させます。(糞尿による悪臭、巣材利用の為の断熱材破壊など)

#### <アライグマがいるかも?と思ったら>

生息数が増えてからの対策は困難であり早期の捕獲対策が必要となるため、県ではアライグマの目撃や捕獲、被害発生情報を収集しています。アライグマを目撃・捕獲された場合(捕獲には「捕獲許可」が必要です。)や被害が発生した場合は、西部農林振興センター林業振興課(0855-29-5604)までご連絡をお願いします。

#### <アライグマの特徴>



眉間から鼻筋が黒い



しま模様の尾



眉間から鼻筋が白い

#### <アライグマに似ている動物>



タヌキ



模様が無い尾



アナグマ

令和3年2月21日（日）に浜田市金城町波佐にて鳥獣対策勉強会を実施しました。今回の勉強会は地域ぐるみでの鳥獣対策実施に向け農事組合法人「ひやころう波佐」が企画したもので、鳥根県西部農林振興センターの鳥獣専門員が講師を務めました。勉強会ではイノシシの生態や人里に出てくるようになった経緯、防護柵の点検ポイント等を動画を交えながら説明しました。ひやころう波佐の皆さんは鳥獣対策に意欲的に取り組まれており、さっそく勉強会の後に防護柵の点検をされたとのこと。今回は座学での勉強会でしたが、次回は現地を見ながらそれぞれの地形条件、被害状況に合わせた対策研修を行う予定です。引き続き、野生動物との棲み分け、適切な鳥獣対策を行えるようサポートしていきます。



# 浜田林業部トピックス(3月号)

## TOPICS 1

## 県民参加の植樹イベントを開催しました！

令和3年3月13日(土)に江津市波子町で、3月20日(土)に浜田市旭町で植樹イベントを開催しました(主催:島根県及び第71回全国植樹祭島根県実行委員会)。本イベントは、今年の5月30日(日)に予定している第71回全国植樹祭の開催に向けて県内の機運を高めていくことを目的として企画しました。

江津会場では市の木であるクロマツのコンテナ苗300本、浜田会場では原木しいたけのほだ木にもなるクヌギのポット苗300本を参加者の皆様に植樹していただきました。当日は雨の心配もありましたが、イベント中は雨も降らず、両会場であわせて220名の方に参加していただきました。

記念植樹のほかにも森林教室(浜田会場)や記念品の配布を行いました。イベントを通して、植樹祭に向けて機運を高めることはもちろん、森林について考えるきっかけになったのではないのでしょうか。

多くの方にご参加いただき、ありがとうございました。



記念植樹の様子

### コンテナ苗とは？

円筒形に改良された容器(コンテナ容器)で育成された苗で、土と一体化しています。根に土がついた状態で植栽するため、乾燥等の影響から根を守る事ができ、また、ポット苗よりも細長い形状の容器で育てるため、根がまっすぐ育ちます。そのため植栽後の活着率(地面に根付き育つ率)が向上し、初期成長にも優れています。さらに、その形状から植え穴を小さくすることができ、植付け作業の労力軽減につながるなど様々なメリットがあり、再造林コストを低減する苗として主流になりつつあります。

### ■ポット苗



### ■裸苗



### ■コンテナ苗



### ■コンテナ苗植栽



※写真: 島根県農林水産基本計画(令和2年4月)より